

## ■都市計画審議会及び改定検討部会での意見・指摘とそれに対する対応案について

- 表中で青字としている項目は、本日特にご議論いただきたい論点として整理している項目です。
- 灰色でハッチングしている項目は、『中間のまとめ』と『中間のまとめ』後に検討する項目です。
- 表中で赤字としている項目は、区において引き続き対応方針を検討していく項目です。

章	節	意見・指摘事項の内容	対応案	会議
全体	共通	古い言葉（概念）が使われているのでワーディングのチェックをすべし。例）道路・交通	・〔分野4〕道路交通については、「移動環境」という言葉を用いて進化のイメージを出している ・ <b>それ以外の言葉については区で対応方針を検討</b>	第5回部会
序章 都市計画マスタープランの意義・役割・位置付けと改定の背景	(1) 改定版 千代田区都市計画マスタープランの意義・役割	「Ground-up型」のまちづくりモデルを区として発信するくらいの内容を書いたほうがよい。	・主な役割において記述	第5回部会
		協働連携に向けて、「場作り、モデル作りの中心的役割を担う」姿勢を示すべき。 (5年ごとの見直しを前提に)ビジョンをより具体的に、より踏み込んだものでもよいのではないか。	・ビジョンをより具体的に、より踏み込んだものにするかについては、20年間という長期間を考えて現段階の記述にとどめる	第5回部会 令和元年第1回都計審
	(2) 位置付けと対象範囲・目標年次	都市計画の方針としての事項とまちづくり全般としての事項の整理・区分（都市計画マスタープランの役割と射程、分野連携の誘導）	・ <b>都市計画マスタープランの射程については区で対応方針を検討</b> ・分野連携の誘導については、P27～34の分野別まちづくりの目標と方針で記述	第4回部会
		都市計画マスタープランで扱う問題の範囲の明示	・ <b>区で対応方針を検討</b>	令和元年第1回都計審
		都市計画マスタープランと分野別計画やアクションプランが連動する仕掛け	・個別計画やアクションプランにおいて整理	第4回部会
		改定の背景として20年間の社会変化をしっかりと記述すべき	・計画改定の背景と目的で記述を追加	令和元年第1回都計審
		区民目線では、都市計画マスタープランに書かれたことが何につながっていくのか、何が実現されていくのかがわかりにくいのではないか。		第6回部会
		都市計画マスタープランで何を受け止めるのか、どの分野と連携していくのかまで考えておくべき。		第6回部会
		改定の視点について、どういった都市を目指すのか総合的な視点（土地利用の基本方針にあるようなもの）が入るとよい。リソースをオーガナイズしてマネジメントする視点、戦略や目指す方向が欠けている。区民目線ではパンチがないように見えるのではないかと。		第6回部会
		行政だけで全てを抱えることなく、外部の専門家などを連携させるのが都市マネジメントであり、そういった仕組みを作っている自治体は他にないので、モデルとなる。ぜひ取り組んでほしい。		第6回部会
		リニア新幹線の開通等により都心の中で地域間競争が起きる。今の都心機能は永続的に千代田区にあり続けるのだろうか。	・計画改定の背景と目的の記述を整理し、追加	第6回部会
		景観については、事務局（景観・都市計画課）で景観法、条例、指針による具体的な指導まで具体的なアクションをとっている。エネルギーやモビリティなども景観と同じくらいのレベルでやってはどうか。		第6回部会
		これから大事になるのは「面白い」「ここに住みたい」と感じられるものをまちづくりのレベルでどう創出できるか。希薄化した面白みをどのように再構築できるのかを検討すべき。		第6回部会
		集積のレイヤー相互の関わりが薄い。関わりを持たせることが軸であり、つながるといところで重なってくる。どういった軸で絡み合って強化されるのかが見えてくるとよい。		第6回部会
		都市計画マスタープランの中で、分野別のアクションプランに対すとかかりを作るもの、都市計画として具体的にアクションを起こすものなど、整理しないと総合計画のようになってしまう。例えば、今後の論点「ア環境と調和したまちづくり分野」に「SDGsを踏まえたまちづくりの推進」や「ESG投資の動向を取り入れた都市づくり」とあるが、検討していくと1年以上かかる。	・計画改定の背景と目的に、区としての次のステップの具体的な取組み、個別プロジェクトの指針を示すこと、SDGs、ESGについては、都市づくりにおいて具体化できるものを意識して取組んでいくという姿勢を示すよう追記	第6回部会
		「先進性」「フロントランナー」と記述されているように、「千代田区だからこそ試せる新しいチャレンジ、東京・日本をリードしていく」という視点を入れてほしい。		第6回部会
千代田区には区民の思い、日本経済を牽引するという2つの役割がある。		第6回部会		
強化ポイントとして、「ICT等の技術革新、「Society 5.0」の到来を見据えた～」と記述しているが、千代田区としてどうしていくかということまで記述してもよいのではないか。	・計画改定の背景と目的に、「都市づくりのグランドデザインを踏まえ、千代田区が中心的な役割を果たす」姿勢を示すよう追記	第6回部会		
実現可能なプランができるとしたら千代田区だけである。千代田区らしさにつながるもの。		第6回部会		
文化政策が感じられない。計画改定の目的には「歴史、文化」や「魅力・価値創造」といった言葉が出てくるが、改定の視点の見出しから見えてこない。「景観づくりの進化」の中に文化が入っており、位置づけ、優先順位が低いように感じる。開発にあたって土地の文化・風土をどう検討していくか、ビジョンとして感じたい。次世代の子ども達に大人たちが考えているビジョンが感じられるようにしたい、はっきりビジョンを打ち出すべき。文化政策としての意識も持ってほしい。	・「文化」という言葉の意味を土地の力、そこに生活しているひとの力、生活や生業、シビックプライドなど、文化振興が扱う領域を超えた大きな通念としての文化と捉え、計画改定の背景と目的の記述を整理（分野別まちづくりの目標と方針の中で、各分野において「文化」をどう捉えているかを体系的に別資料に整理）	第6回部会		
エリアケイパビリティ、あらゆる資源を総合的に考えて戦略をつくるべきであり、千代田区に住むことの魅力を定めながら個人と公共の関係をつなぐものを感じたい。	継続して検討すべき内容として整理	第6回部会		
第1章 千代田区の現況	(2) まちづくりの主な成果と今後の論点	今後の論点「道路・交通体系整備分野」と「福祉のまちづくり分野」、分野別の目標と方針「道路・交通体系と快適な移動環境の整備」「多様性を活かすユニバーサルなまちづくり」に関わってくるが、ユニバーサルデザインの先を考えてヒューマンセンタードデザインの考え方を取り入れるべき。特に交通インフラについては、バリアフリー法改正により駅などでのバリアフリールートの誘導に関する考え方が変わった。どの自治体も取り入れてないので、千代田区がリードしていくとよい。	継続して検討すべき内容として整理	第6回部会
		ポストオリンピックに向けて、新しい概念としてヒューマンセンタードデザインの考え方について検討した方がよい。		
		今後の論点「防災まちづくり分野」について、共助やエリアマネジメントの視点を追加した方がよい。	・今後の論点に、「エリア」という視点を追加	第6回部会
		今後の論点「環境と調和したまちづくり分野」は、大きな話と具体的話が書かれており、レベル感がばらばらになっている。地域冷暖房をエネルギーの面的利用とするなど東京都のグランドデザインにあわせたいほうがよい。	・SDGsの視点をもって都市づくりを進めることについては、計画改定の背景と目的で記述しているため、「SDGsを踏まえたまちづくりの推進」を削除	第6回部会
	(3) 首都東京における千代田区の魅力と価値	国際都市として、次の千代田区を担う可能性のあるクリエイティブな人材の把握		第3回部会
		千代田区とは、千代田区の魅力・価値、あり方について、「江戸城の御門内にある」ことの意識を持たせるような記述 外濠の内側のあり方に対しては特別な配慮をもって、まちの将来、持続可能性、美しい都市の魅力を維持する方向性を考えるべき	・(3) 首都東京における千代田区の魅力と価値において、②の一つとして多様性の切り口から記述を追加	令和元年第1回都計審 令和元年第1回都計審
	(4) 都市計画マスタープランの改定の視点	改定の視点について、プライオリティがわかりづらい。	・ <b>ご議論いただきたい論点として整理</b>	第5回部会
		改定都市計画マスタープランにおけるプライオリティの明確化 将来の人口構成のもとで、最重要課題をどう複合的に整理するかが課題。人口推計の分析	・(4) 都市計画マスタープランの改定の視点において、リード文で姿勢を明示	令和元年第1回都計審 令和元年第1回都計審
		改定の視点「土地利用の進化」の趣旨が分かりにくい。開発誘導の方針は、千代田区として重要な点なので、論点を明確に具体的にすべき。	・土地利用の進化の表現を修正（高さや容積率といった建築物の要素だけで土地利用のあり方を考えるのではなく見るのではなく、まちの資源や文脈、生業の継続性、ひとの目線の魅力などのまちの魅力のレイヤーを意識したエリアのデザインを考えながら、土地利用を誘導していくことを念頭に置く）	第6回部会
		規制誘導の進化として何をいうのか。千代田区方式、千代田区システムというものが区民にも分かるように、具体的なイメージが伝わるように出せるのかを検討すべき。 文化と都市計画を重ねたときに、何が生み出せてどういった土地利用が考えられるのか、土地利用の規制誘導のあり方なども考えられるのではないかと。		

第2章 まちづくりの理念・将来像	(1) まちづくりの基本理念・将来像	千代田区らしい新たな都市像の先導に向けた指標や分野横断的な指標の必要性。地域特性を踏まえた戦略の必要性	将来像にあわせた指標を設定するか（現行MPのものさしの取扱い） +戦略的先導地域の検討	第1回部会
		「～がつながる」は分野別・地域別に対するつながりをわかりやすくしたほうがよい。	“つながる都心”の将来イメージ像において、分野、都市マネジメントの方針へのつながりを表現。 ・地域別へのつながりの強化については、地域別の目標検討時に引き続き検討	第5回部会
		*再掲 ・これから大事になるのは「面白い」「ここに住みたい」と感じられるものをまちづくりのレベルでどう創出できるか。希薄化した面白みをどのように再構築できるのかを検討すべき。	・将来像の記述について、今後も継続して検討すべき論点として整理。	第6回部会
	(2) 首都東京における都市の骨格構造と基本エリアのまちづくりの方向性	東京都の区域マス（2020年度改定予定）に対するメッセージのようなものがあるといふ。	分野別・地域別の検討から広域的な視点から、基本エリアにフィードバック	第5回部会
		下町とは違う江戸っ子の視点（住民の中に受け継がれる伝統や格式）がない。	・秋葉原・神田・神保町エリアにおいて、江戸からの伝統と格式ある下町の記述を追加	第5回部会
		未来の姿をイラストなどで示して住み続けたいと思える工夫をすべき （再掲） リニア新幹線の開通等により都心の中で地域間競争が起きる。今の都心機能は永続的に千代田区にあり続けるのか。	素案段階（分野別・地域別）で方針のイメージ写真+方針図→将来像のイメージ図 ・骨格構造図（広域）中にリニア新幹線（メガリジョン）の軸を追加	令和元年第1回都計審 第6回部会
	(3) 土地利用の基本方針	容積ボーナス以外の区の魅力価値向上に資する貢献を誘導させる施策展開	・（3）土地利用の基本方針において、基本的な認識として、リード文に開発誘導の考え方・視点を追記	第3回都計審
		容積緩和・インセンティブ路線ではない方法の記述		令和元年第1回都計審
		開発誘導におけるインセンティブのあり方は見直す必要があり、慎重な記述		令和元年第1回都計審
		生物多様性、障害者支援など多様な貢献メニューの提案が可能な仕組みづくり	・（3）土地利用の基本方針において、建築開発の地域貢献の提案の仕組みとして記述 素案策定段階方針のイメージ写真・方針図等で表現	第4回部会
住民が視覚的に将来の街並みなどを理解しやすく示すべき		令和元年第1回都計審		
地区によって、需要に対応するところ、抑制した方がよいところがある。地価をコントロールできないので居住者層が限定されてくることになるが、そこをどうするかを踏まえて抑制について考えていくべき。		・多様性が増す中で、人口や床の集積に対する考え方・対応については、地区の特性、区民や区の方向性（どういうまちにしていきたいか）を踏まえることが重要という視点、居住者層が限定的となる可能性などを踏まえ、今後も継続して検討すべき内容として、『中間のまとめ』とは別に継続論点として別紙で整理。	第6回部会	
多様性など質的な集積は今後も進んでいくべきだが、物理的な床・人口の集積は地区ごとに考えるべき。マーケットの理論だけでなく、区や区民の方向性、どういうまちにしていきたいのが重要。			第6回部会	
今後、容積インセンティブによる更新は難しい。交通、防災、エネルギーを考えると、一定程度の上限は考えるべき。地域の選択による集積・抑制の考え方を都市計画マスタープランで示す。		・容積インセンティブにかかわるものについては、土地利用からエリアデザインへという視点をもちつつ、今後も継続して検討すべき内容として、『中間のまとめ』とは別に継続論点として別紙で整理。	第6回部会	
紀尾井町、番町・麹町はオークラや四谷の開発により人の流れが変化した。昔ながらの風情や住宅地について考えていくべき。	・骨格構造（3つの基本エリア）、（4）土地利用の基本方針に追記	第6回部会		
小川町、靖国通りまでが大手町化しつつある。経済発展のために犠牲になっているものは何かを考えるべき。自分たちが関与する短い時間だけの価値を考えるのではなく、持続的にマネジメントする方向を示すべき。都市計画だからこそ線引きができる。（3階建てくらいの中にある文化）		第6回部会		
第3章 分野別まちづくりの目標と方針	分野1 豊かな都心生活を実現する住環境の創出	留学生やマンション住民等、新たなコミュニティ構築の在り方	・「●まち、ひとのつながりが深まる持続的・創造的なコミュニティ形成」において、項目の一つとしてコミュニティ形成に関する記述を追加	第3回部会
		「誰もが住み続けられるまち」は、引き続き位置づけを	・「●多様な人々がライフスタイルに応じて住み続けられる居住機能」として、基本的方向性を継承して記述	令和元年第1回都計審
		「豊かな都心生活を実現する住環境の創出」では、「豊か」に加えて「安心」な都心生活という視点があつた方がよい。	・強化ポイント「より質の高い都心の居住スタイルと環境の創造」に、“安心して暮らせる”という視点で記述を追加	第6回部会
	分野2 緑と水辺がたく良質な空間の創出	老朽化した公園、緑地の再生・活用、コミュニティの拠点や新しい文化の創出、防災拠点としての可能性等に踏み込んだうえで、市民緑地認定制度に言及	・「●千代田区ならではの緑と水辺の価値、その継承とさらなる充実」において、公園緑地、街路樹の効果的な維持管理、再生について記述を追加。 ・「●都心生活の価値を高める多彩な緑と水辺空間の再生・創出と活用」において、文化、コミュニティ、防災拠点、市民緑地認定制度については、官民の連携の記述に追加	第3回部会
		物理的な環境形成とその先にある空間の使い方の関係性の明示 オープンスペースについて、作る段階から目的を明確にし、運用も含め具体化	・分野を超えた連携の視点の一つとして追記（都市マネジメント）	第4回部会 令和元年第1回都計審
		ヒューマンスケール、グラウンドレベルの賑わいが作られるよう低層部の設えの考え方を明示	・「●都心生活の価値を高める多彩な緑と水辺空間の再生・創出と活用」の項目の一つとして、ひとの目線からの空間デザインの記述を追加	第4回部会
		街路樹等公共空間の緑の維持管理について	・「●千代田区ならではの緑と水辺の価値、その継承とさらなる充実」において、公園緑地、街路樹の効果的な維持管理、再生について記述を追加	第4回都計審
	都市計画中央公園についてまったく触れられていない	・「●千代田区ならではの緑と水辺の価値、その継承とさらなる充実」において、皇居・内濠と連続性の高い都市計画公園としての一体的活用について記述を追加	令和元年第1回都計審	
	分野3 都心の風格と景観、界隈の魅力を創出・継承するまちづくり	地域づくり＝観光という新しい視点	・「●界隈の個性を活かした魅力再生・継承」において、滞在して界隈を楽しむ、文化を体験する環境づくりの視点で記述を追加	第2回部会
		自動運転等交通分野の新展開を見据えた区界を超えた連携の方針	・「●界隈の個性を活かした魅力再生・継承」において、近接する区外の個性ある界隈との連携について記述を追加	第4回部会
界隈の継続性についての地区計画など具体的に保全する手法の明示		・「●界隈の個性を活かした魅力再生・継承」において、地区計画との手法の効果的な活用について記述を追加	第4回都計審	
景観づくり分野の今後の論点にある「人の活動を景観資源」とする視点が抜け落ちている。 ある地域でどうやって商売（生業）を継承させていくかという課題の都市マスにおける記述		・「●界隈の個性を活かした魅力再生・継承」において、まちの魅力ある活動を楽しむ、体験・交流が広がる場について記述を追加	第5回部会	
境界線の魅力を積極的に混在させるところ、エリア回遊軸にそって移動を楽しむところなどを整理して、それぞれに戦略を立てて		分野別方針（分野3）の具体的検討 ※特に方針図	令和元年第1回都計審	
「下町らしさ」が曖昧なのでもっと掘り下げてほしい。スポット別のまちづくりについてきめ細かい方針を		分野別方針（分野3）の具体的検討 ※特に方針図	令和元年第1回都計審	
「都心の風格と景観、界隈の魅力を創出・継承するまちづくり」について、“視点場”のあり方について、みんなが楽しめるということなどと結びつけて触れた方がよい。	・「〔分野2〕緑と水辺がたく良質な空間の創出」の強化ポイント「オープンスペースから考えるまちづくり」に、“心地よい視点場”という視点で記述を追加 ・「〔分野3〕都心の風格と景観、界隈の魅力を生み出すまちづくり」の強化ポイント「都心の風格の継承・創造」に、“視点場からまちを楽しむ”ということが伝わるように記述を追加	第6回部会		

第3章 分野別まちづくりの 目標と方針	分野4 道路・交通体系と快適な移動環境の整備	地下鉄駅と地上空間のネットワーク、歩行環境の改善状況 道路空間の歴史的視点からの見直しなど交通利便性を多面的に評価、発展する仕組み	・「都心生活を支える交通結節機能の充実と多様な交通モードの展開」において、交通結節機能の充実に関連して、地上・地下をつなぐ移動環境について記述を追加	第2回都計審
	分野5 多様性を活かすユニバーサルなまちづくり	「医療」という表現を防災や福祉の分野でも既存施設との連携や有効活用の中に入れるべき。	・「●多様なひとが障壁・境目を感じることなく活動できる環境づくり」において、施設・サービスの効果的な連携について、記述を追加	第5回部会
		保育・教育面の記述が都市計画マスタープランにないことが不安		令和元年第1回都計審
	分野6 災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり	タワーマンションの防災対策、災害時のインバウンドへの情報発信	・目標において、都心生活の継続性確保について記述 ・分野を超えた連携の視点の一つとして、界隈の回遊を楽しむみちづくりについて記述を追加	第1回部会
		災害対応力について区民、企業、滞在者の観点からL C Pについての記載	・「●減災と災害時の生命を守る安全確保、都心生活の継続性確保」において、都心の人の多様性を考慮した安全確保、共助体制について記述を追加	第3回部会
		中小宿泊施設の集積による災害対応力の弱体化やコミュニティの希薄化への対応		第3回都計審
		防災まちづくりについて、首都機能・都心機能の継続性が最も重要なものとされ、住民や来街者の命以上に都市機能を守るという点が前面に出されていることが疑問 分野別の並びについて、「災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり」と「環境と調和したスマートなまちづくり」が並んでいた方がよい。	・目標において、の文言を追記し、強化ポイントの記載順を変更（命を守る安全確保） ・並び順を変更した。	令和元年第1回都計審
	分野7 環境と調和したスマートなまちづくり	エネルギーの創出の工夫 医療はエネルギーとの関連（エネルギー負荷が高い）もある。	・「●地域の特性に応じたエネルギーデザインの展開」において、強化ポイントで記述済み	第2回都計審
		「環境と調和したスマートなまちづくり」について、「エネルギー」というキーワードを追加できないか。	分野別方針（分野7）の具体的検討	第5回部会
		強化ポイントに、ICT技術の話とは別に「データの活用」についても加えてほしい。プラットフォームの構築にもつながる。ローデータだけでなくビッグデータの活用も含めて、データの活用については今後重要である。	強化ポイント「進化するICT基盤の上で展開するスマートな都市基盤の形成」に、“データ活用”の視点で記述を追加した。	第6回部会
共通	分野別について、政策目的のもとに組織横断的な展開をより意識すべき 7分野を2つに括っているが、分野間の連携についての記述はしないのか。	・リード文の追記 分野ごとに他分野との連携イメージを追記。	令和元年第1回都計審	
	分野別と地域別のつながりがわかりづらい。	分野別方針において、全区的視点から地域展開が見えるよう方針図を作成	第5回部会	
	（5年ごとの見直しを前提に）個性ある界隈の境目、骨格軸、拠点、界隈性やオープンスペースの使い方など方向性を書き込んでもよいのではないか	分野別方針において、各分野で具体化すべきレベル感を考慮して検討	令和元年第1回都計審	
	方針と具体の主体との関係性の明示（誰が何をすべきか）	分野別方針において、各分野で具体化すべきレベル感を考慮して検討	第4回部会	
	（中村委員）・年齢層のレイヤーでどのようなサービスが受けられるのか、自分ごととして受け取ってもらえるようにデザインしてはどうか。	・今後も継続して検討すべき内容として、『中間のまとめ』とは別に継続論点として別紙で整理。 ・素案を作成する段階で、普及啓発の方法として検討。	第6回部会	
第4章 地域別まちづくりの 目標と方針	共通	各地域の「展開のポイント」のスタンスは、課題なのか、意思を示したもののなのかがわかりづらい。	・今後のまちづくりの方向性を示すことがわかるよう「展開のポイント」の表題を削除（まちづくりの進化の方向性として一体的に表示）	第5回部会
		増加する人口の受け皿を明確に考えて	区としての対応方針による	令和元年第1回都計審
		地域別の20年後の人口動向、税収、予算などを考えてまちづくりをしなれば	区としての対応方針による	令和元年第1回都計審
		限定的で部分最適な面があり、地域の定義が違ってきている可能性があるため、整理をしながら地域別まちづくりの目標と方針を作成	地域別方針において検討	令和元年第1回都計審
		地域の将来像が欠落している、大きな変更点となっている	・中間まとめでは、現行計画の地域別将来像をベースにまちづくりの方向性を示す構成に変更	令和元年第1回都計審
第5章 都市マネジメントの 方針	(1) 都心の力を創造的に活かす協働のまちづくり	基本的なスタンスとして、行政だけでなくみんなと一緒にやっていくということを明記すべき	・序章（都市計画マスタープランの主な役割）に記載済み ・都市マネジメントの方針のリード文を追記	令和元年第1回都計審
		協働のまちづくりについて、すでにあるメニュー、体制、人材、支援、場づくりなどをどのようにしていくのかを示す	都市マネジメントの方針の具体化検討にむけて整理 MPに具体的に記述するかについては、区の対応方針による	令和元年第1回都計審
	(2) 地域まちづくりの推進	新たに千代田区に住み始めた住民とのまちづくり手法	〔都市とエリアのマネジメント〕において、人の多様性を活かした人材の発掘・育成について記述を追加	第2回都計審
		まちづくりにおける人材育成について 最低限の管理から活用・運営の概念への発展		〔都市とエリアのマネジメント〕において、都市マネジメントの概念として整理
(3) 継続的なまちづくりの改善・進化	都市計画基礎調査に対する区としての追加項目の検討	区としての対応方針による	第4回部会	
改定プロセス及び区民参画等	当事者の意見を反映する機会（移動・バリアフリー等）	区としての対応方針による	第1回部会	
	中小ビルの利用状況の把握とオーナーの声を聴く必要	区としての対応方針による	第1回都計審	
	昼間区民や地権者、事業者等の参画が必要	区としての対応方針による	第1回都計審	
	ヒアリングにおける障害者の位置づけ	区としての対応方針による	第2回部会	
	区民の認知度向上に対する施策	区としての対応方針による	第3回都計審	
	広域エリアにおける合意形成手法	区としての対応方針による	第4回都計審	
	都や隣接区とのつながり・連携についての相手先との調整について	区としての対応方針による	令和元年第1回都計審	
	方向性が変わっている地域については、パブリックコメントとは別により濃い接触による調整を図るべき	区としての対応方針による	令和元年第1回都計審	
	地域別構想について意見をどう聴取していくかが課題。結果はパブリックコメントと連携させること。	区としての対応方針による	令和元年第1回都計審	
	住民や就業者の民意の把握について、何をどの対象（住民、町会だけでなく様々なステークホルダー等）にどのタイミングで聞かかといったステップや手続きの明確化	区としての対応方針による	令和元年第1回都計審	
参考資料等	現行の都市計画マスタープランと比較して、変更内容やその理由が分かるよう整理	分野別・地域別方針素案作成段階で対応（参考資料作成）	令和元年第1回都計審	
	東京への人口の一極集中、都心への都市機能・人口の集積のなかでの千代田区の役割について	ご議論いただきたい論点として整理	令和元年第1回都計審	